

部局名:雇用経済部

令和3年度当初予算知事査定ヒアリング資料

順番	細事業名	事業費(単位:千円)	ページ
1	小規模事業支援費補助金	1,440,219	1
2	中小企業支援「新たな日常」推進事業費	30,000	3
合 計		1,470,219	

令和3年度事業マネジメントシート（事務事業）

担当課 雇用経済部 中小企業・サービス産業振興課

事業概要

細事業名		小規模事業支援費補助金					区分	継続	
施策		321	中小企業・小規模企業の振興						
基本事業		32101	中小企業・小規模企業の経営力の向上						
根拠 (法令等)		三重県補助金等交付規則、雇用経済部関係補助金等交付要綱、小規模事業支援費補助金交付要領、中小企業基本法、商工会法、商工会議所法、商工会及び商工会議所による小規模事業者の支援に関する法律、三重県中小企業・小規模企業振興条例							
予算 額 等	年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度			
	予算額		1,419,904千円						
	決算額	1,332,325千円							
事業の目的		商工会、商工会議所及び商工会連合会（以下、商工会等）が、小規模事業者等が抱える個別の課題・ニーズに即応した基礎的、専門的、広域的支援を通して、小規模事業者等の経営の改善と安定、発展を図り、地域産業の活性化に寄与することを目的とします。							
事業目標		小規模事業者等が抱える課題等に即応したきめ細かな伴走型支援を通じて、経営改善と安定を促進し、小規模事業者等の持続的発展、地域産業の活性化をめざします。 また、小規模事業支援費補助金では、年間53,000件以上の巡回指導等を目標とします。							
前年度からの 変更点		小規模事業者に対する支援ニーズの多様化・高度化に伴い、商工会、商工会議所等に求められる業務の内容が変化していることから、補助制度の改正等により、商工会、商工会議所等の経営支援機能の強化に取り組みます。							
事業の必要性と期待される効果		小規模事業者は、事業所数で県内中小企業の約90%を占めており、地域の経済や暮らしを支え、コミュニティの中核的役割を担っている重要な存在です。しかし、小規模事業者は、経営資源に乏しく、経営基盤が脆弱で、外部環境変化の影響を受けやすいことから、自助努力のみでは対応が困難な課題解決を支援するほか、生産性の向上や事業者連携、地域産品の開発等の取組を支援する必要があります。 こうした支援の実施には、きめ細かな対応が必要であり、地域の人口構成や産業構造等の特性が異なる中で、それぞれの地域の事業者によって構成された地域総合経済団体である商工会等は、地域の事業者の実情に最も精通した団体であることから、その機能を活用して小規模事業者等への施策を促進することが最も効果的・効率的です。							

取組詳細

取組概要	<u>小規模事業者等の振興と安定を図るため、商工会等の行う小規模事業者等の経営・技術の改善・発達に向けた伴走型支援の充実を図ります。また、小規模事業者等に対する支援体制を強化するため、商工会等の経営支援機能の強化に取り組みます。</u>
取組内容等	

(1) 小規模事業支援費補助金 1,440,219千円 (1,367,542千円)

商工会等が経営指導員等を設置して行う小規模事業者の経営・技術の改善・発達のための事業を行うために要する経費のうち、職員の設置に要する経費、職員の資質向上に要する経費等に対して助成します。

令和3年度事業マネジメントシート（事務事業）

担当課 雇用経済部 中小企業・サービス産業振興課

事業概要

細事業名	中小企業支援「新たな日常」推進事業費					区分	新規
施策	321	中小企業・小規模企業の振興					
基本事業	32101	中小企業・小規模企業の経営力の向上					
根拠 (法令等)	三重県中小企業・小規模企業振興条例						
予算 額 等	年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	
	予算額						
	決算額						
事業の目的	<p>中小企業・小規模企業が、DXや新しい技術を活用して、「新たな日常」に対応したビジネスモデルを構築し、現在の危機を乗り越えて売上回復や事業拡大を実現することにより地域経済の発展につなげることを目的とする。</p>						
事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金採択件数 54 件 ・採択企業の1年後の収益等が「向上または維持」した企業の割合が70%を目標とする。 						
前年度からの変更点	新規						
事業の必要性と期待される効果	<p>【現状と課題】</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大により社会や人々の行動が変化中、中小企業・小規模企業の生産性向上や競争力を強化させ、働き方改革を実現するためには、DXの活用が必要となっている。経営資源に限られる中小企業・小規模企業が、新たにDXを活用した経営計画やビジョンを策定し、これを実現するためには、商工団体や専門家による伴走型支援や資金面の支援が必要である。</p> <p>【効果】</p> <p>中小企業・小規模企業が「新たな日常」に対応し、事業を拡大することで、地域経済の発展につながる。</p>						

取組詳細

取組概要	中小企業・小規模企業が、「新たな日常」に向けた事業の拡大を実現できるよう、DXによる生産性向上・競争力強化に資する取組や、経営改善活動や社会経済情勢のニーズ変化に対応した新たな事業展開や価値創出を推進する取組に対して補助する。
取組内容等	

(1) 中小企業支援「新たな日常」対応補助金（経営向上型）（新規） 22,500千円（県費11,250千円）

「新たな日常」に向けた事業の拡大を実現できるよう、DXによる生産性向上・競争力強化に資する経営計画（三重県版経営向上計画）を策定し、これを実現するための取組に対して補助する。

- ・補助上限：50万円/件
- ・補助率：1/2以内

例)・デジタルを活用した在宅勤務や非対面営業などを行う環境整備

- ・ICT機器を使いこなすための社員教育の実施
- ・実店舗販売、ECサイト、SNS等を組み合わせたオムニチャンネルの構築
- ・クラウド基幹業務システム、キャッシュレスの導入

(2) 中小企業支援「新たな日常」対応補助金（経営革新型）（新規） 7,500千円（県費3,750千円）

経営改善活動にとどまらず、社会経済情勢や顧客のニーズ変化に応じて、DXを活用して自社の競争領域や提供価値を変化させるなど、新たな事業展開や価値創出を推進する企業の取組に対して補助する。

- ・補助上限：25～125万円/件
- ・補助率：1/2以内

例)・DX等による経営革新に向けた試作開発・高度化支援

- ・DX等による経営革新に伴う知財出願等支援
- ・企業・部門間データ連携等DX推進支援

部局名:地域連携部
国体・全国障害者スポーツ大会局

令和3年度当初予算知事査定ヒアリング資料

順番	細事業名	事業費(単位:千円)	ページ
1	新型コロナウイルス感染症に対する交通事業者支援事業費	470,664	1
2	三重とこわか国体・三重とこわか大会開催事業費	7,806,532	2
3	競技力向上対策事業費	867,694	6
合 計		9,144,890	

令和3年度事業マネジメントシート（事務事業）

担当課 地域連携部交通政策課

事業概要

細事業名	新型コロナウイルス感染症に対する交通事業者支援事業費					区分	新規	
施策	352	安心を支え未来につなげる公共交通の充実						
基本事業	35201	持続可能な移動手段の確保と次世代モビリティの導入支援						
根拠 (法令等)	地域連携部関係補助金等交付要綱 三重県総合交通ビジョン							
予算 額 等	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度		
	予算額							
	決算額							
事業の目的	<p>コロナ禍で移動自粛が要請される中においても運行の継続を求められている交通事業者に対し、車両等の感染症対策や、運行にかかる費用を支援することにより、厳しい経営状況にある県内交通事業者の安全対策や利用者の安心確保を図ります。</p> <p>加えて、県内交通事業者が行う利用回帰に向けた取組にかかる費用を支援することにより、利用者を確保し、安定的な運行体制につなげます。</p>							
事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域公共交通における安全・安心の確保 ・地域公共交通の利用回帰策の実施 							
前年度からの 変更点	引き続き厳しい経営状況にある県内交通事業者への支援を継続、拡充します。							
事業の必要性 と期待される 効果	<p>新型コロナウイルス感染症との戦いが長期化の様相を見せる中で、新型コロナウイルス感染症の予防・拡大防止のため、車両内等の感染症対策や運行に対する支援を実施することにより、県民の生活維持に必要な地域公共交通の安全・安心の確保を図ります。</p> <p>加えて、県内交通事業者が行う利用回帰に向けた取組を支援することにより、利用者を確保し、安定的な運行体制につなげます。</p>							

取組詳細

取組概要	<ul style="list-style-type: none"> ・県内交通事業者が行う車両等への感染症対策にかかる費用への補助 ・県内交通事業者が行う安定的な運行にかかる費用への補助 ・県内交通事業者が行う利用回帰のための取組にかかる費用への補助
取組内容等	

新型コロナウイルス感染症に対する交通事業者支援事業費 事業費 470,664千円

- (1) 県内交通事業者が行う車両等への感染症対策にかかる費用への補助：4,664千円
必要な車両内等の感染症対策（抗菌対策等）にかかる費用を支援します。
- (2) 県内交通事業者が行う安定的な運行にかかる費用への補助：456,000千円
輸送力維持の実施等による運行にかかる費用を支援します。
- (3) 県内交通事業者が利用回帰のため実施する取組にかかる費用への補助：10,000千円
利用回帰のため実施する割引企画、PR等の取組にかかる費用を支援します。

令和3年度事業マネジメントシート（事務事業）

担当課	地域連携部 国体・全国障害者スポーツ大会局 総務企画課、競技・式典課、運営調整課、全国障害者 スポーツ大会課
-----	--

事業概要

細事業名		三重とこわか国体・三重とこわか大会開催事業費					区分	継続
施策		241	競技スポーツの推進					
基本事業		24102	三重とこわか国体・三重とこわか大会の開催					
根拠 (法令等)		スポーツ基本法 障害者基本法第25条						
予算 額 等	年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度		
	予算額	/	1,605,623千円	/	/	/		
	決算額	741,500千円						
事業の目的		<p>三重とこわか国体・三重とこわか大会の開催に向け、実行委員会総会等の開催や開・閉会式会場の整備、輸送・交通対策や宿泊施設の確保、式典への対応、競技役員の養成、情報支援ボランティア等の養成、県民への周知など、円滑に業務を進めます。</p> <p>また、コロナ禍にあっても、安全・安心な両大会を開催することで、新しい国体・大会のかたちを三重から示します。</p>						
事業目標		<ul style="list-style-type: none"> ○開催機運の醸成、両大会の情報発信 ○両大会を支えるボランティアの養成 ○競技別リハーサル大会運営費補助金・市町競技施設整備費補助金・会場地市町運営交付金を通じた会場地市町への支援 ○会場のバリアフリー化の推進 ○新しい生活様式に基づいた安全・安心な大会運営 						
前年度からの変更点		<ul style="list-style-type: none"> ○競技日程など、両大会の情報を掲載する観戦ガイドブックを発行します。 ○両大会の感動を伝える報告書を発行します。 ○テレビ・インターネット等にて、開・閉会式・競技の様子等を中継・放送します。 ○両大会の各種ボランティアを対象とした研修会を開催します。 ○両大会の競技観覧者の募集や受付、スタッフ等の管理を行う来場者管理システムを運用します。 ○両大会の円滑な運営のため、県職員で構成する実施本部を設置します。 ○三重県総合文化センターにおいて、両大会の開・閉会式をオンライン式典により実施します。 ○新型コロナウイルス感染症対策のため、三重県版ガイドラインを策定し、安全・安心な競技会運営を支援します。 						

	<p>○国体競技会に係る県記録本部を設置・運営します。</p> <p>○両大会の開・閉会式会場の会場整備を行います。</p> <p>○開・閉会式会場等における参加者の安全・安心のための警備対策を実施します。</p> <p>○両大会における安全・確実かつ円滑な輸送を行うため、輸送実施計画（最終）を策定し、参加者の輸送や会場周辺の交通対策等を実施します。</p> <p>○両大会における最終配宿計画を策定し、参加者の配宿を実施します。</p> <p>○両大会の開・閉会式会場や競技会場において弁当の提供を行います。</p> <p>○開・閉会式会場等に救護所の設置を行うとともに、新型コロナウイルス感染症への対策を実施します。</p> <p>○会場地市町における国体競技会等の運営に対する経費について支援を行います。</p> <p>○大会の競技会について、ユニバーサルデザインに配慮した会場設営を行います。</p>
<p>事業の必要性と期待される効果</p>	<p>三重とこわか国体・三重とこわか大会の開催に向けて、会場地市町及び競技団体等と緊密に連携し、着実に取り組みを進める必要があります。</p> <p>様々な媒体を活用し広く県民に周知することで、両大会に向けた機運醸成やボランティアへの参加促進につなげます。</p> <p>県内競技団体が実施する競技役員等の養成を支援することで、円滑な競技運営につなげ、国体後の競技の普及・強化にも寄与します。</p> <p>コロナ禍であっても、選手自らの力を存分に発揮し、選手、関係者、観客、県民の皆さんが安心して競技会を観戦、応援、参加できる大会運営を行い、両大会で掲げる県民力の結集や多様な魅力発信を行うことで、両大会を安全・安心に開催できるという新しい価値を三重から示せるよう取組を進めます。</p>

取組詳細

<p>取組概要</p>	<p>三重とこわか国体・三重とこわか大会の開催に向けて取組を進めます。また、会場地市町や競技団体と連携しながら、競技運営、競技施設整備、輸送交通対策、宿泊施設の確保、競技役員等の養成・編成など円滑な運営ができるよう取組を進めるとともに、広報並びに県民運動を展開します。</p> <p>開・閉会式においては選手と式典を分離し、安全・安心の確保、デジタル技術等を活用した式典とします。</p> <p>また、競技会においては、選手自らの力を存分に発揮できるよう環境を準備するとともに、参加されるすべての方にとって、安全・安心な競技会となるよう取り組んでいきます。</p>
<p>取組内容等</p>	

(1) 三重とこわか国体・三重とこわか大会開催事業費 事業費 7,806,532 千円（県費 309,130 千円）

①第 76 回国民体育大会開催事業費（R2：448,670 千円 → R3：1,694,536 千円）

三重とこわか国体の開催に向け、会場地市町や競技団体等と連携しながら、式典、開・閉会式会場の整備、輸送・交通対策、宿泊施設等の確保などの準備を進め、安全・安心な国体を開催します。

・事務費（県執行分）23,345 千円

・三重とこわか国体・三重とこわか大会実行委員会負担金 1,671,191 千円

(主な内容)

ア 式典 (575, 235 千円)

- ・参加者の安全・安心を確保したうえで、デジタル技術等を活用して両大会への想いや感動を伝えるなど、前例にとられない国体史上初となる「オンライン式典」を実施します。
- ・開・閉会式において、参加者を心のこもったおもてなしで歓迎するため、式典音楽、式典演技、映像プログラムなどの演出を行います。

イ 開・閉会式会場整備 (204, 621 千円)

- ・国体の開・閉会式会場の会場整備を行います。

ウ 輸送 (182, 701 千円)

- ・国体における安全・確実かつ円滑な輸送を行うため、輸送実施計画(最終)を策定し、参加者の輸送や会場周辺の交通対策等を実施します。

エ 警備 (82, 750 千円)

- ・開・閉会式会場や周辺交通並びに来場者駐車場において、参加者の安全・安心のための警備対策を実施します。

オ 宿泊 (20, 232 千円)

- ・国体において確実かつ効率的に宿泊施設を提供するため、最終配宿計画を策定し、参加者の配宿を実施します。

②第 21 回全国障害者スポーツ大会開催事業費 (R2 : 188, 539 千円 → R3 : 2, 377, 112 千円)

三重とこわか大会の開催に向け、会場地市町や競技団体等と連携しながら、式典、開閉会式会場の整備、競技会場整備、競技会運営、輸送・交通対策、宿泊施設等の確保などの準備を進め、安全・安心な大会を開催します。

・事務費(県執行分) 34, 594 千円

・三重とこわか国体・三重とこわか大会実行委員会負担金 2, 342, 518 千円

(主な内容)

ア 式典 (61, 785 千円)

- ・参加者の安全・安心を確保したうえで、デジタル技術等を活用して両大会への想いや感動を伝えるなど、前例にとられない大会史上初となる「オンライン式典」を実施します。
- ・開・閉会式において、参加者を心のこもったおもてなしで歓迎するため、式典音楽、式典演技、映像プログラムなどの演出を行います。

イ 開・閉会式会場整備 (86, 316 千円)

- ・大会の開・閉会式会場の会場整備を行います。

ウ 競技会場整備 (849, 762 千円)

- ・安全で快適に競技会が実施できるよう、ユニバーサルデザインをふまえた競技会場の設営を行います。

エ 競技会運営 (229, 903 千円)

- ・各種ガイドラインに基づく新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで、リハーサル大会及び本大会の競技会運営を円滑に行います。

オ 輸送（743,960 千円）

- ・大会における安全・確実かつ円滑な輸送を行うため、輸送実施計画（最終）を策定し、参加者の輸送や会場周辺の交通対策等を実施します。

カ 警備（170,673 千円）

- ・開・閉会式会場や周辺交通並びに来場者駐車場のほか、大会競技会場の周辺交通における参加者の安全・安心のための警備対策を実施します。

キ 宿泊（72,257 千円）

- ・大会において確実かつ効率的に宿泊施設を提供するため、最終配宿計画を策定し、参加者の配宿を実施します。

③第 76 回国民体育大会市町競技施設整備費補助金（R2：549,974 千円 → R3：891,088 千円）

- ・会場地市町における国体競技会場の施設整備費に対する補助を行います。

④三重とこわか国体競技別リハーサル大会運営費補助金（53,370 千円）

- ・国体の円滑な準備、運営に資するため、新型コロナウイルス感染症に伴う代替大会も含めリハーサル大会の運営費に対する補助を実施します。

⑤会場地市町運営交付金（2,606,331 千円）

- ・国体における市町の財政負担の軽減と円滑な運営を図るため、競技会等の運営に要する経費について支援を行います。

⑥行幸啓経費（R2：8,440 千円 → R3：184,095 千円）

- ・両大会の本県開催に伴う皇室の御来県に向けて関係機関との調整等の準備を進め、行幸啓等の対応を行います。

令和3年度事業マネジメントシート（事務事業）

担当課 地域連携部 国体・全国障害者スポーツ大会局
競技力向上対策課

事業概要

細事業名		競技力向上対策事業費					区分	継続	
施策		241	競技スポーツの推進						
基本事業		24101	競技力の向上						
根拠 (法令等)		<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ基本法 ・三重県スポーツ推進条例 ・三重県スポーツ推進計画 							
予算額等	年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度			
	予算額		852,651千円						
	決算額	662,031千円							
事業の目的		<ul style="list-style-type: none"> ・本県アスリートの育成・強化を進めることで、令和3年に本県で開催する第76回国民体育大会（三重とこわか国体）において、本県アスリートが活躍し、天皇杯（男女総合優勝）・皇后杯（女子総合優勝）の獲得を目指し、総合的・計画的に競技力向上対策を進めるとともに、その後も安定した競技力を確保することを目的とします。 							
事業目標		<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年5月に設置した「三重県競技力向上対策本部」を中心として、県スポーツ協会、競技団体等関係機関と連携し、「三重県競技力向上対策基本方針」に基づき競技力向上対策を進めることにより、三重とこわか国体における天皇杯（男女総合優勝）・皇后杯（女子総合優勝）の獲得を実現することを令和3年度の目標に設定しました。 							
前年度からの変更点		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においても、競技団体が着実に強化活動を進められるよう、新型コロナウイルス感染症対策を追加しました。 							
事業の必要性と期待される効果		<ul style="list-style-type: none"> ・三重とこわか国体において天皇杯・皇后杯を獲得するためには、これまでの継続的な取組によって、競技力向上へ向けた基盤や体制がそれぞれの競技団体で整ってきていることから、引き続き競技団体への支援を行うことで、より一層の強化を進めていく必要があります。 ・三重とこわか国体の後も、安定的な競技力の維持を図るため、選手の育成・強化や、三重の将来の競技スポーツを支えるジュニア選手の発掘・育成、女性アスリートが活躍できる環境整備等に取り組む必要があります。 ・三重とこわか国体において天皇杯・皇后杯を獲得するとともに、その後も安定的な競技力を維持し、スポーツの魅力を発信し続けることで、本県選手の活躍をとおして、県民の皆さんに夢や感動を与えると同時に、郷土への愛着や一体感の醸成につなげます。 							

取組詳細

取組概要

「三重県競技力向上対策本部」を中心とし、各関係団体との連携を図りながら、総力を挙げて競技力向上対策を進めることにより、三重とこわか国体において天皇杯・皇后杯を獲得するとともに、その後の安定的な競技力の維持を図ります。

【成年選手の育成・強化】

本県選手や、就職支援等により県内に定着したアスリートが三重とこわか国体で活躍できるよう、競技団体の強化活動を支援するとともに、大学運動部、企業・クラブチーム、成年選手の強化指定を行います。

【指導者の養成・確保】

ジュニア・少年選手の育成を図るとともに、三重とこわか国体の後も継続して三重の競技スポーツを担う人材育成につなげるため、全国初・唯一の事業である「チームみえ・コーチアカデミーセンター」の取組を進めます。

【女性アスリートの発掘・育成】

国内外の大会において活躍できる女性アスリートの発掘・育成をさらに進めます。また、女性アスリートを指導する指導者の資質向上を図るとともに、女性アスリートが抱える課題を解決するため、研修会の開催に取り組みます。

【ジュニア選手の育成・強化】

三重とこわか国体後の競技力維持を担うジュニア選手の育成・強化を図ります。また、国内外での活躍が期待できるジュニア・少年選手を「チームみえスーパージュニア」として指定し、県民の皆さん等からの寄附金を活用してその強化活動を支援します。

【啓発・広報】

チームみえの広報に取り組み、スポーツを「する人」、「みる人」、「支える人」の一体感を醸成します。

【顕彰】

全国及び国際的なスポーツ競技大会において優秀な成績を収め、広く県民にスポーツの範となり、県民の士気高揚に貢献した者に対して表彰します。

取組内容等

競技力向上対策事業費

事業費 867,694 千円（県費 9,827 千円）

【主な事業概要】

○ チームみえの強化

「チームみえ国体選手強化事業」（R2：225,000 千円 → R3：280,000 千円）

三重とこわか国体での天皇杯・皇后杯獲得のため、本県のチーム・選手をはじめ、就職支援事業により県内の企業に定着したアスリートやスポーツ指導員等が三重とこわか国体で活躍できるよう、各競技団体が実施する強化活動を支援します。

「大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業」 (R2：25,000千円 → R3：30,000千円)

競技団体が強化の中心として位置づけ、三重とこわか国体の成年種別での活躍が期待できる大学運動部、企業・クラブチームを指定し、強化活動を支援します。(R2：20部・チーム→R3：22部・チーム)

「高等学校運動部強化指定事業」 (R2：30,000千円 → R3：30,000千円)

三重とこわか国体など、国内外の大会で活躍するトップアスリートの育成を目指し、育成・強化の中心となることが期待できる高等学校運動部を指定し、強化活動を支援します。(R2：32校71部→R3：32校71部)

「スポーツ指導員配置事業」 (R2：298,465千円 → R3：298,507千円)

三重とこわか国体において活躍が期待できるトップアスリートを「スポーツ指導員」として配置し、成年種別の得点力を確保します。(R2：65名→R3：65名)

○ 指導者の養成・確保

「チームみえ・コーチアカデミーセンター事業」 (R2：64,475千円 → R3：64,475千円)

三重とこわか国体における少年種別の育成・強化を図るとともに、三重とこわか国体の後も継続して三重の競技スポーツを担うジュニア・少年選手の育成につなげるため、コーチアカデミー及びマルチサポートを実施し、指導者の資質向上と、指導体制の構築を進めます。

○ ジュニア選手の育成・強化

「チームみえジュニア育成事業」 (R2：30,000千円 → R3：25,000千円)

将来の国体など、国内外の大会での活躍が期待できる有望なジュニア選手を「チームみえジュニア」とし、その育成・強化のため活動を支援することで、三重とこわか国体終了後の安定した競技力の確保を図ります。(R2：38競技→R3：38競技)

部局名:警察本部

令和3年度当初予算知事査定ヒアリング資料

順番	細事業名	事業費(単位:千円)	ページ
1	庁舎等施設整備費 (科学捜査研究所整備事業)	3,560	1
	警察署庁舎整備費	74,995	2
合 計		78,555	

令和3年度事業マネジメントシート（事務事業）

担当課 警察本部 刑事部科学捜査研究所

事業概要

細事業名	庁舎等施設整備費（科学捜査研究所整備事業）					区分	新規	
施策	141	犯罪に強いまちづくり						
基本事業	14103	県民の安全を守る活動基盤の整備						
根拠 （法令等）	警察法第37条							
予算 額 等	年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度		
	予算額		200,436千円					
	決算額	125,613千円						
事業の目的	警察本部庁舎内の科学捜査研究所は、庁舎が建ってから33年経過し、人員は2倍、機材は3倍に増え、スペースが手狭となり会議室や執務室を転用してきました。今後も科学技術進歩により、更なる機器整備が想定されますが、そのスペース確保は限界です。そのスペース確保と新たな鑑定技術の拠点として独立庁舎の整備を推進します。							
事業目標	犯罪の悪質化・巧妙化に的確に対応するためには、科学技術を活用した客観証拠による確実な立証が重要です。その鍵を握る科学捜査研究所の最新の科学技術を活用するため、環境整備を推進します。							
前年度からの 変更点								
事業の必要性と期待される効果	狭隘化、分散化が著しい科学捜査研究所の独立庁舎整備に向け、建設予定地の調査を行います。これにより、科学捜査の鑑定や分析効率が向上し、犯罪の早期検挙に繋がります。							

取組詳細

取組概要	科学捜査研究所の独立庁舎建設予定地に対する基本計画を実施します。
取組内容等	

科捜研庁舎整備事業 3,560千円（1,560千円）

施設の狭隘化、設備の老朽化の著しい科学捜査研究所につき、独立庁舎整備を進めるべく、基本計画を行います。

令和3年度事業マネジメントシート（事務事業）

担当課 警察本部 警務部会計課

事業概要

細事業名	警察署庁舎整備費					区分	継続	
施策	141	犯罪に強いまちづくり						
基本事業	14103	県民の安全を守る活動基盤の整備						
根拠 (法令等)	警察法第37条、第53条							
予算額等	年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度		
	予算額		8,513千円					
	決算額	31,460千円						
事業の目的	老朽化、狭隘化の著しい警察署について、津波浸水予測や災害警備活動の拠点としての立地・機能等を踏まえ、建替整備を推進します。							
事業目標	日常生活の中で遭遇する可能性のある様々なリスクに対して、県民の暮らしを守るという視点から地域、行政等の関係機関が一体となって備えることのできる社会づくりを推進します。							
前年度からの変更点	大台警察署の設計業務を行います。 大台警察署建替予定地の地質調査を行います。 尾鷲警察署の建替候補地の調査を行います。							
事業の必要性と期待される効果	老朽化、狭隘化が著しい大台警察署の建替整備に向け、設計業務及び建替予定地の地質調査を行います。同様に老朽化、狭隘化が著しい尾鷲警察署の建替整備に向け、建替候補地の調査を行い、治安維持活動、災害警備活動の拠点としての機能強化を図ります。							

取組詳細

取組概要	大台警察署の設計業務を行います。 大台警察署建替予定地の地質調査を行います。 尾鷲警察署の建替候補地の調査を行います。
取組内容等	

警察署庁舎整備事業 74,995千円(18,995千円)

老朽化、狭隘化が著しい大台警察署の建替整備を進めるため、設計業務及び建替予定地の地質調査を行います。

尾鷲警察署の建替整備を進めるため、建替候補地の調査を行います。

大台署の建設候補地



大台町上三瀬字油谷 8 7 7 - 5

大台署の建設候補地



- 旧宮川高校のグラウンド部分（県有地）
- 約7,900平米

人口減少社会における小規模署のあり方

- 人口減少に伴い、事件や事故、窓口事務は減少する見込み
- 費用対効果を考え、住民サービスに支障のない範囲で定員の削減や他署施設の活用を行い、建築規模をコンパクト化
- 東紀州への玄関口の署として、災害発生時における部隊や物資の受入れ等の拠点機能を確保
- 県産木材の積極活用で温かみのある施設に

鉄筋コンクリート3階（一部4階）建て（約2,955平米）

- 1階 執務室
- 2階 執務室
- 3階 職員宿舎
- 4階 機械室

- 間仕切りを設けず、大きな1部屋に複数の課を配置するなど、フレキシビリティの高い空間を実現
- 留置場と武道場は設置せず、隣接署等を利用
- 署内に職員宿舎を設置し、緊急時の対処能力を強化
- 災害活動拠点として、部隊の集結を見越した駐車場のフラット化、備蓄倉庫やマンホールトイレの設置等を検討

尾鷲署の建替え（建替え完了時に築56年）



柱のひび割れ、天井のエフロレンス（※1）
北側軒天の爆裂（※2）

※1 浸水や漏水により、コンクリートやモルタルの表面に白い生成物が浮き出る現象（白華現象）

※2 鉄筋コンクリートの鉄筋が錆びて膨張し、コンクリートを押し出した状態

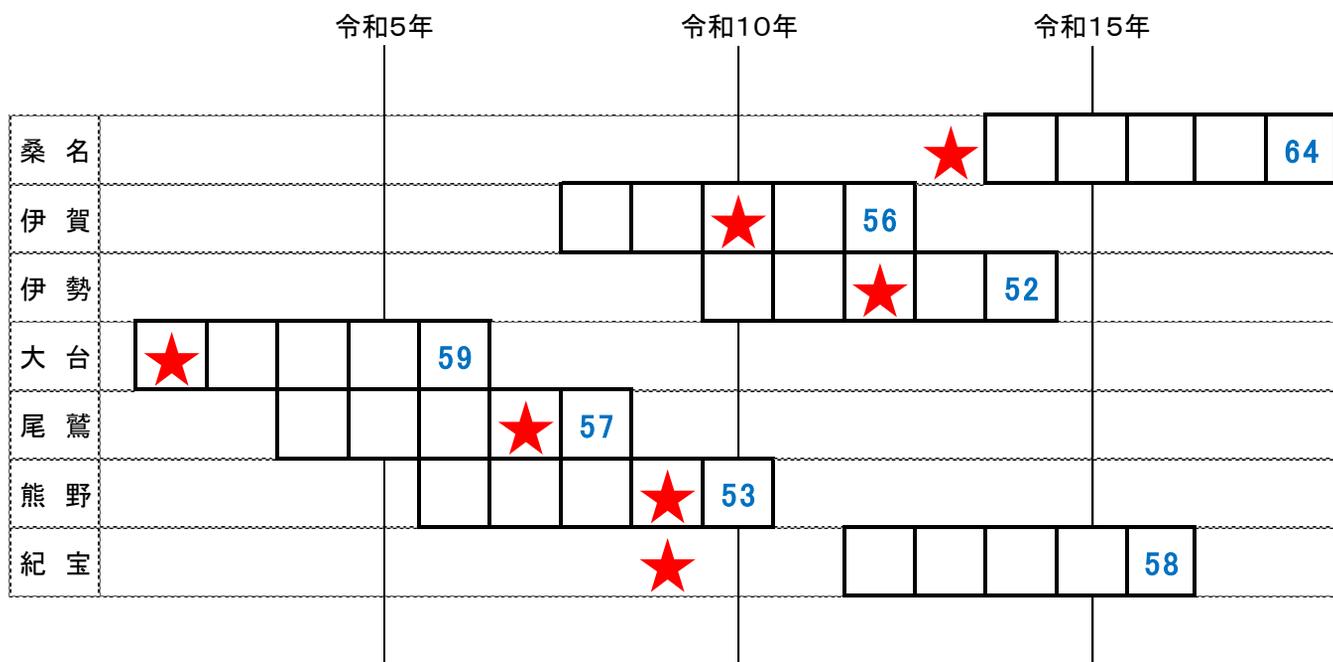


3階階段の漏水（尾鷲署）



漏水箇所（尾鷲署）

支出平準化を図った場合の整備計画の遅れ



青数字は、支出平準化を図った場合の建替終了年度の築年数
 赤印は、痛み具合から見てギリギリの建替期限

建て替えか改修か

建て替え 19.9億円

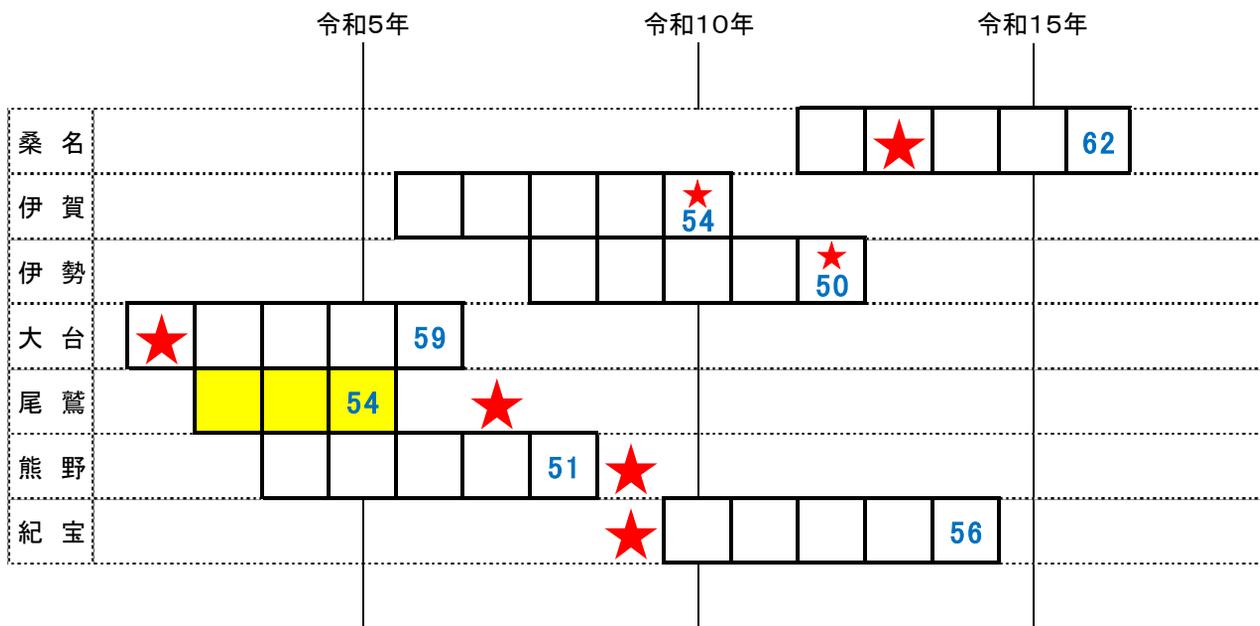
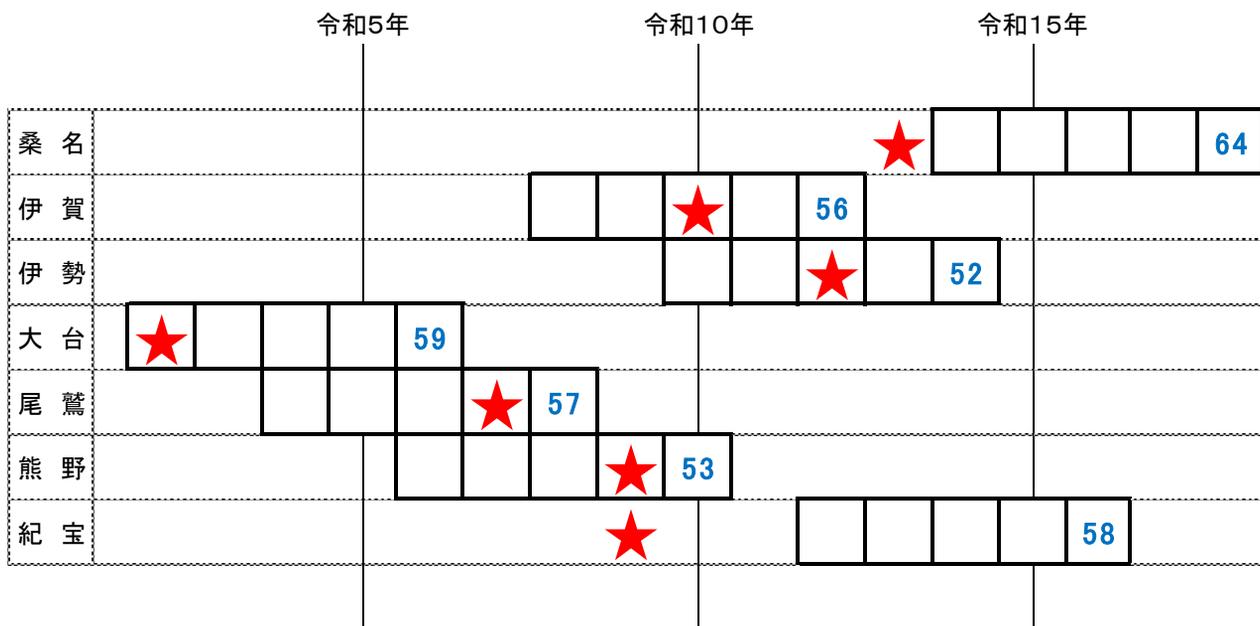
- 5ヶ年で完成
- 現地建て替え
- 定員10人削減

→ 50年使用した場合
4,000万円／年

改修 8.8億円

- 3ヶ年で完成
- 屋根、壁、給排水、空調、エレベーター、内装を改修
- 仮設プレハブ庁舎代1.8億円込み

→ 15年延命した場合
5,900万円／年



青数字は、支出平準化を図った場合の建替終了年度の築年数
 赤印は、痛み具合から見てギリギリの建替期限
 黄印は、大規模改修

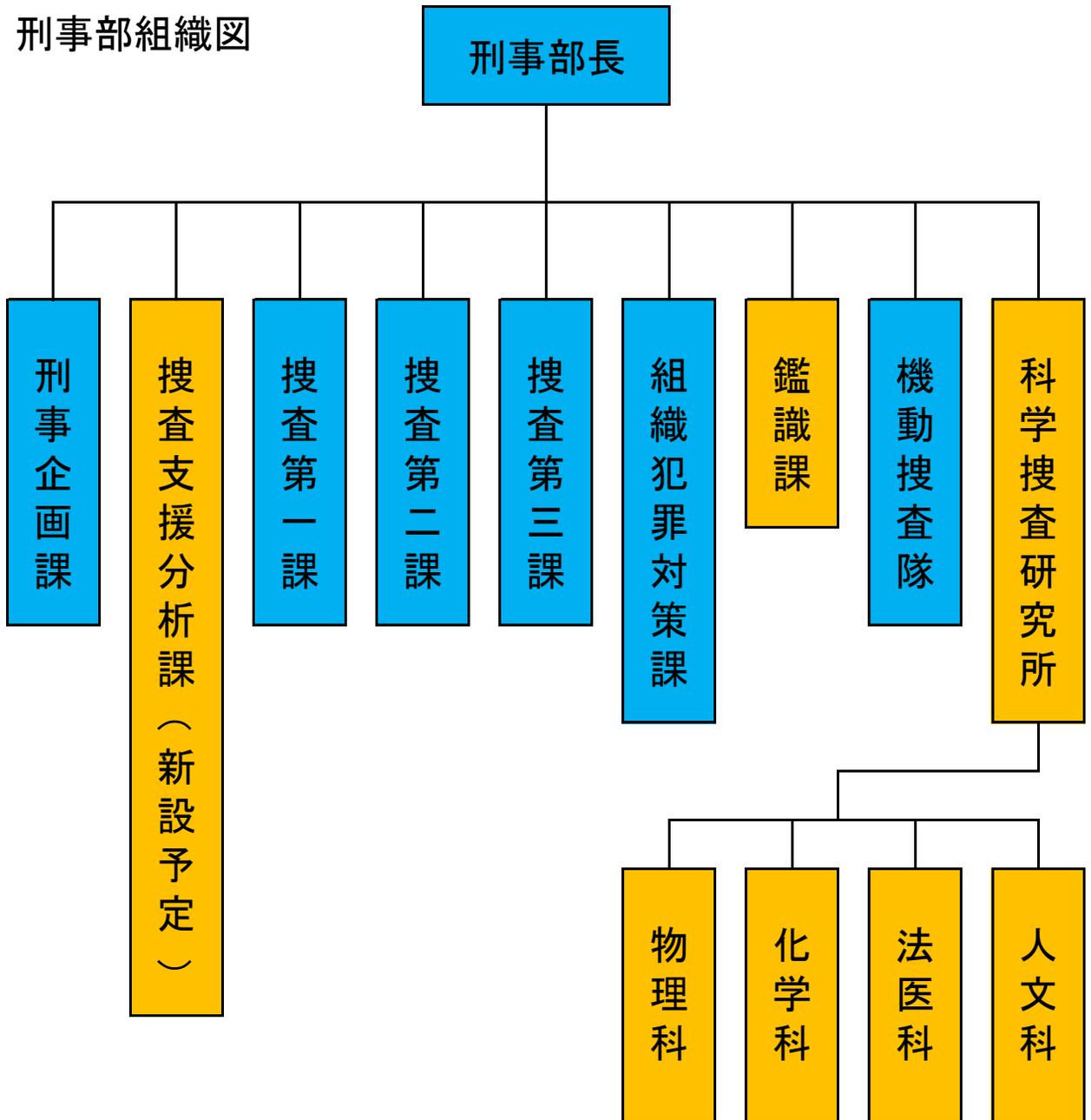


1階階段の天井剥落（伊勢署）



1階階段の天井剥落（伊勢署）

刑事部組織図



科学捜査研究所の拡充

- 科学捜査研究所は昭和59年に発足
昭和62年、警察本部庁舎建築に際して、4階に配置
- 以後33年間で人員は2倍、機材は3倍に増加
- 鑑定機器等の配備で手狭になる度、会議室や他所属執務室を転用するも、そのやり方では限界に
- 鑑定の効率性や安全性が犠牲になる状況も

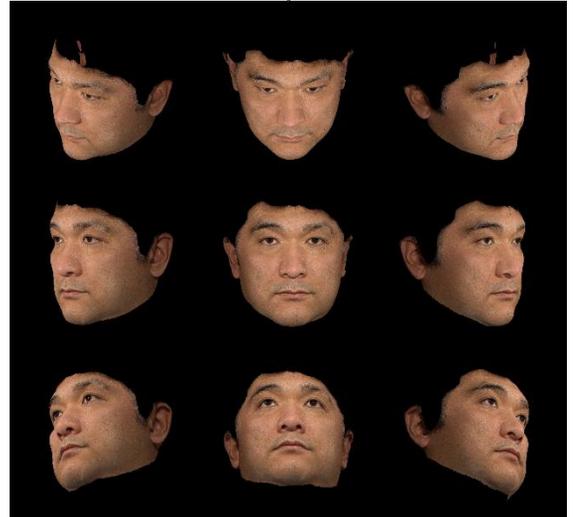
科学捜査研究所の活動



防犯ビデオ画像



三次元顔画像撮影状況



防犯ビデオ画像と三次元顔画像の比較

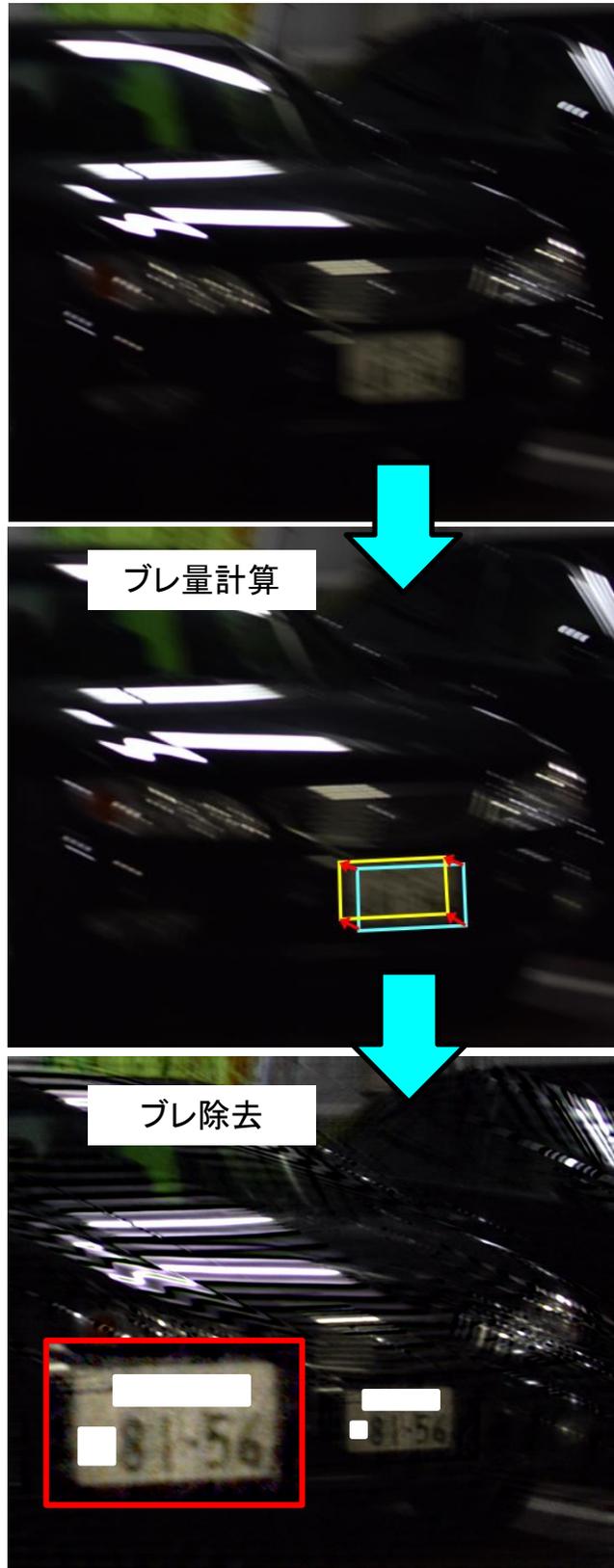


左右で比較
三次元顔画像鑑定

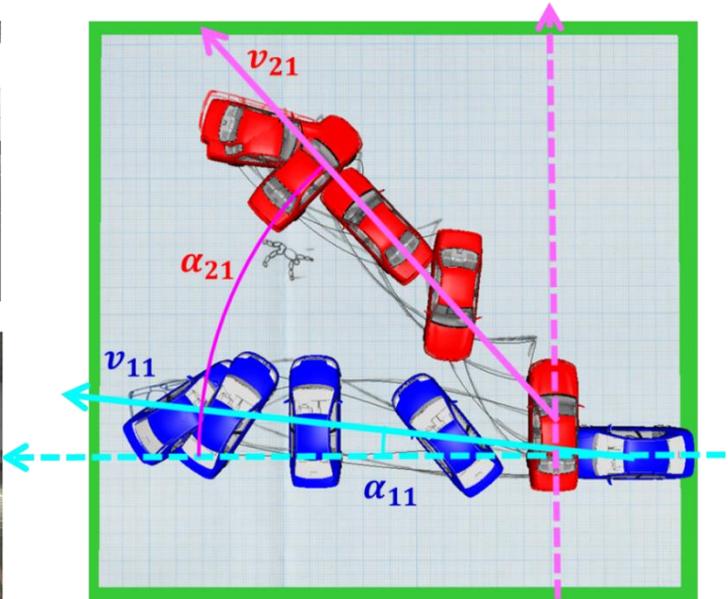
特徴点の比較

輪郭線の比較

車番推定



交通事故鑑定



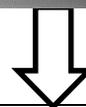
$$\begin{aligned}
 m_1 \times v_{10} + m_2 \times v_{20} \times \cos \alpha_{20} &= m_1 \times v_{11} \times \cos \alpha_{11} + m_2 \times v_{21} \times \cos \alpha_{21} \\
 m_2 \times v_{20} \times \sin \alpha_{20} &= m_1 \times v_{11} \times \sin \alpha_{11} + m_2 \times v_{21} \times \sin \alpha_{21}
 \end{aligned}$$

シミュレーションによる交通事故の再現

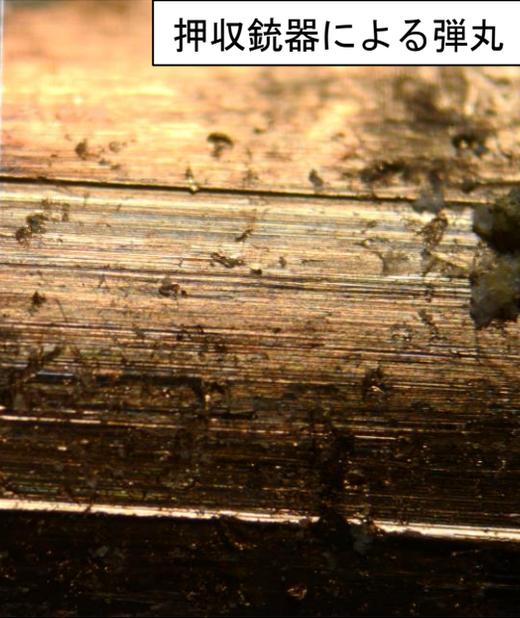
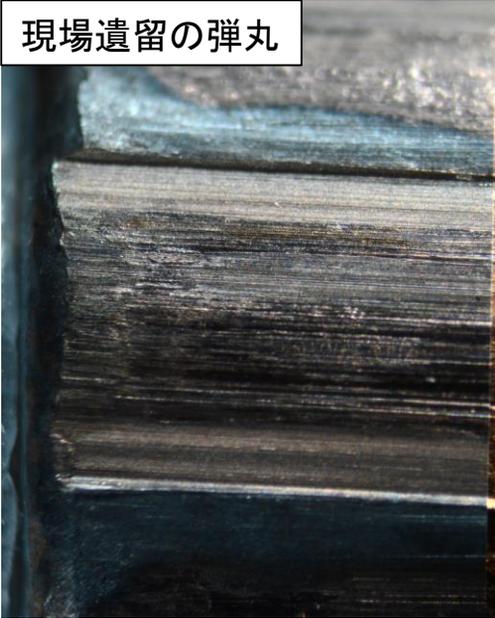
衝突前	衝突後	
速度 [km/h]	45.45	38.87
方向 [deg]	172.09	121.72
Delta-v [km/h]	0.00	0.00
Omega [rad/s]	-1.67	-6.82
変形 [cm]	0	0
EES [km/h]	0.00	0.00
停止	0.11	0.03
速度 [m/s]	12.63	10.77
方向 [deg]	172.09	121.72
変形 [cm]	0.00	0.00
停止	0.11	0.03

○ 事故現場に残る痕跡、車の変形等から衝突形態や衝突速度を推定

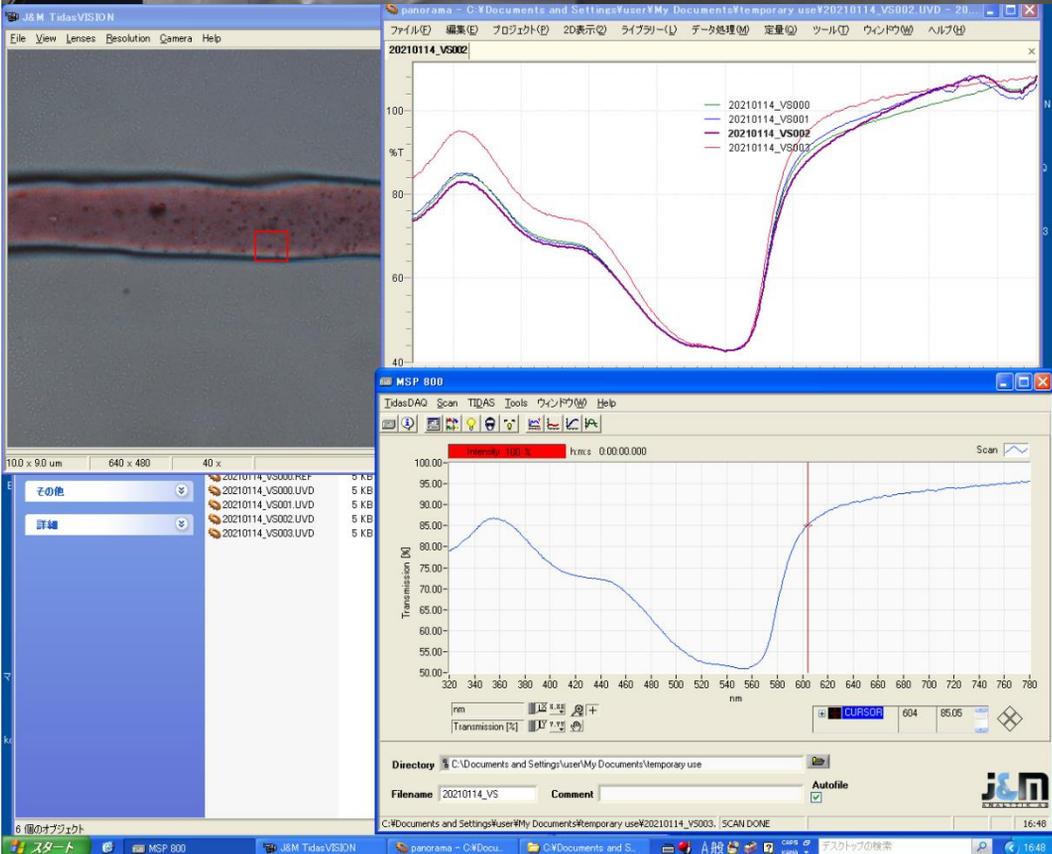
銃器鑑定



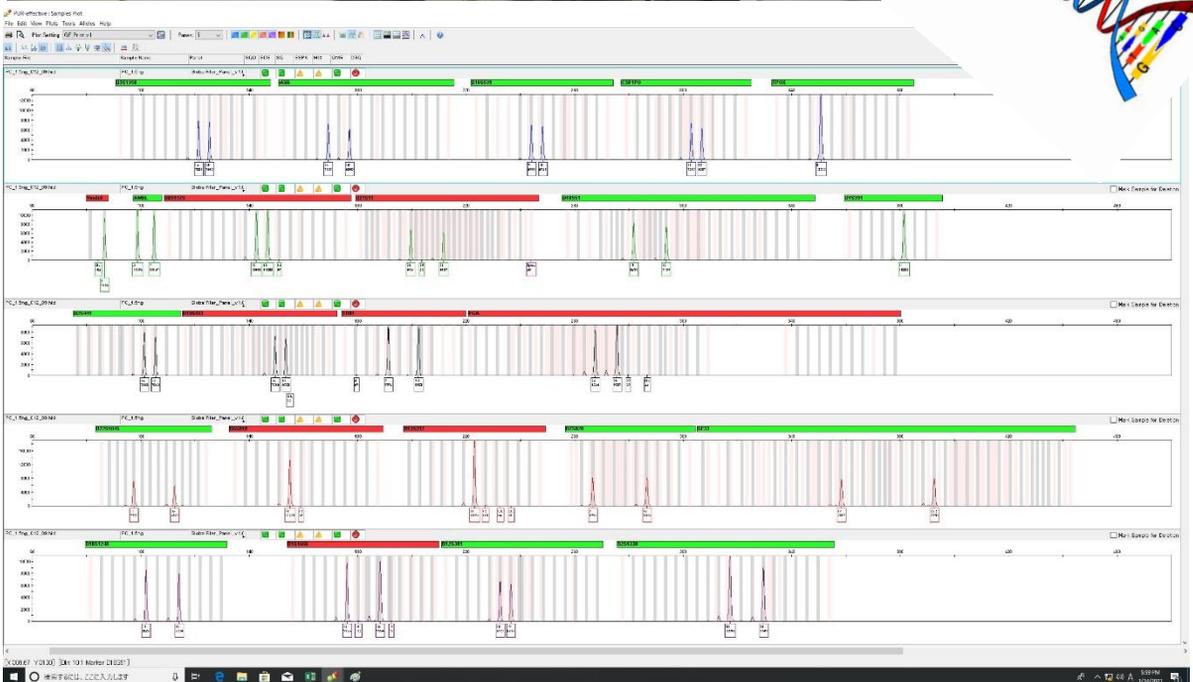
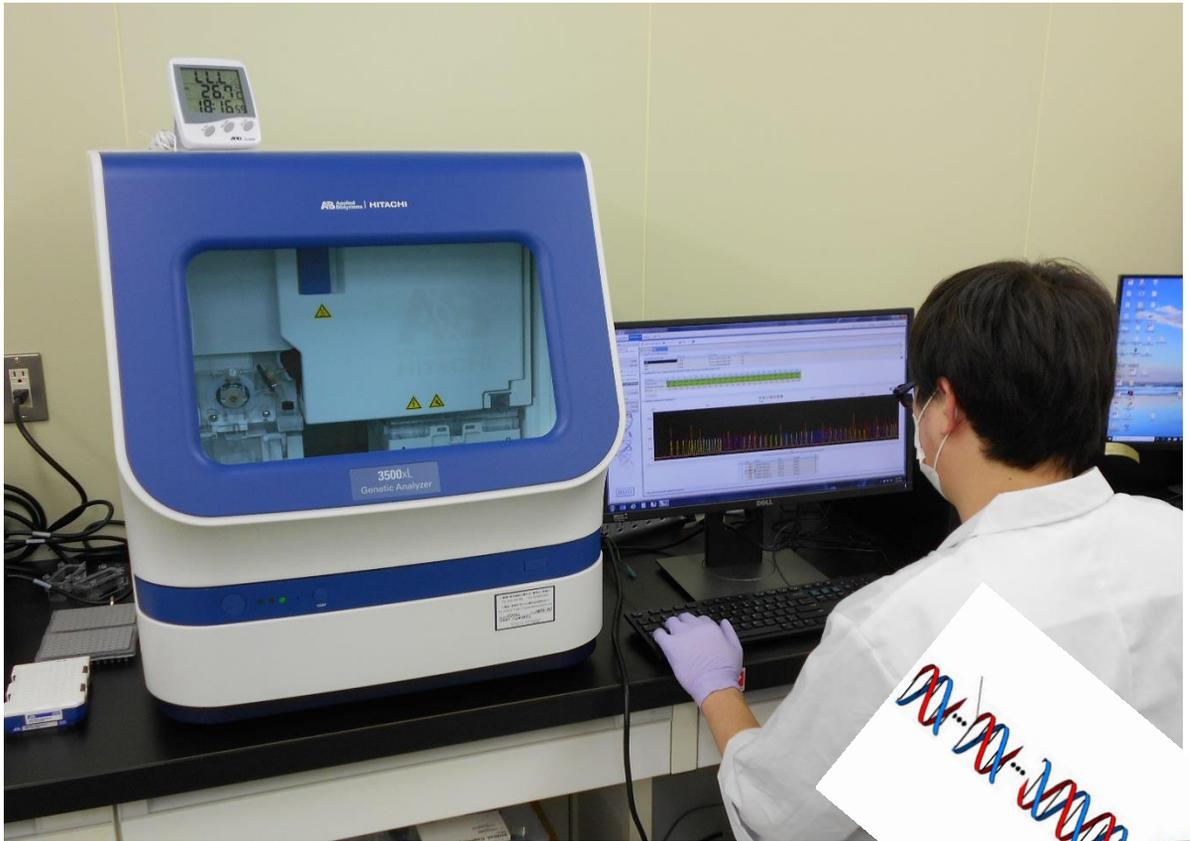
弾丸に残る痕跡を比較し、現場で使用された銃器かを特定



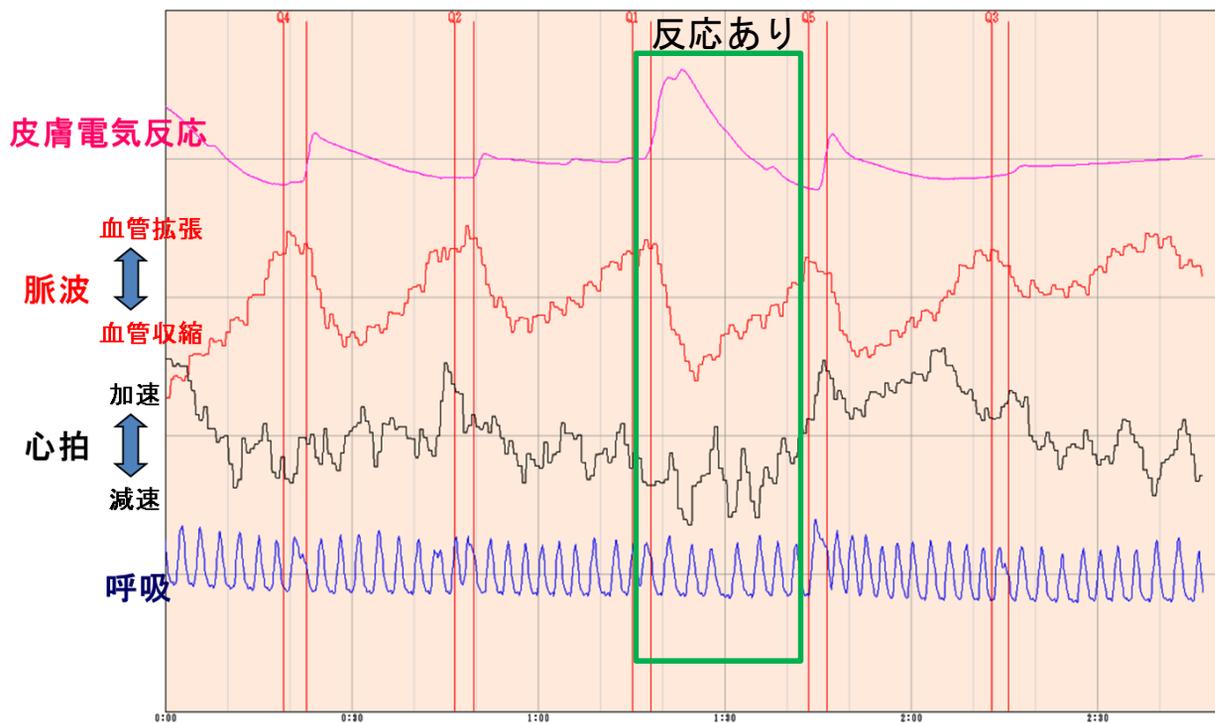
微物鑑定作業、繊維片の異同識別（分光スペクトル測定）



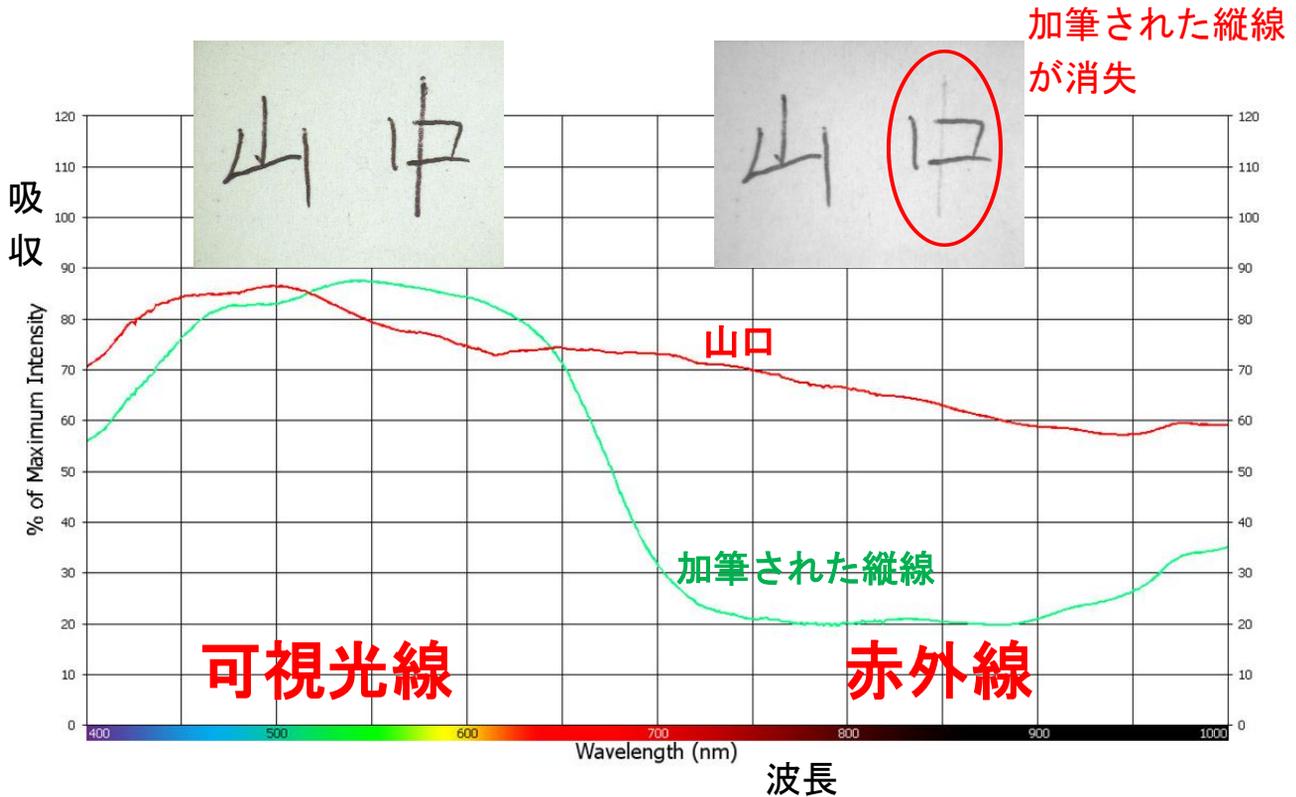
DNA型判定作業（DNA型座位の確認）



ポリグラフ検査



赤外線によるインクの検査



「口」の字に加筆された縦線が赤外線照射により視覚的に消失

同じペンで書かれているように見えるが、インクの違いが科学的に明白（→偽造文書）

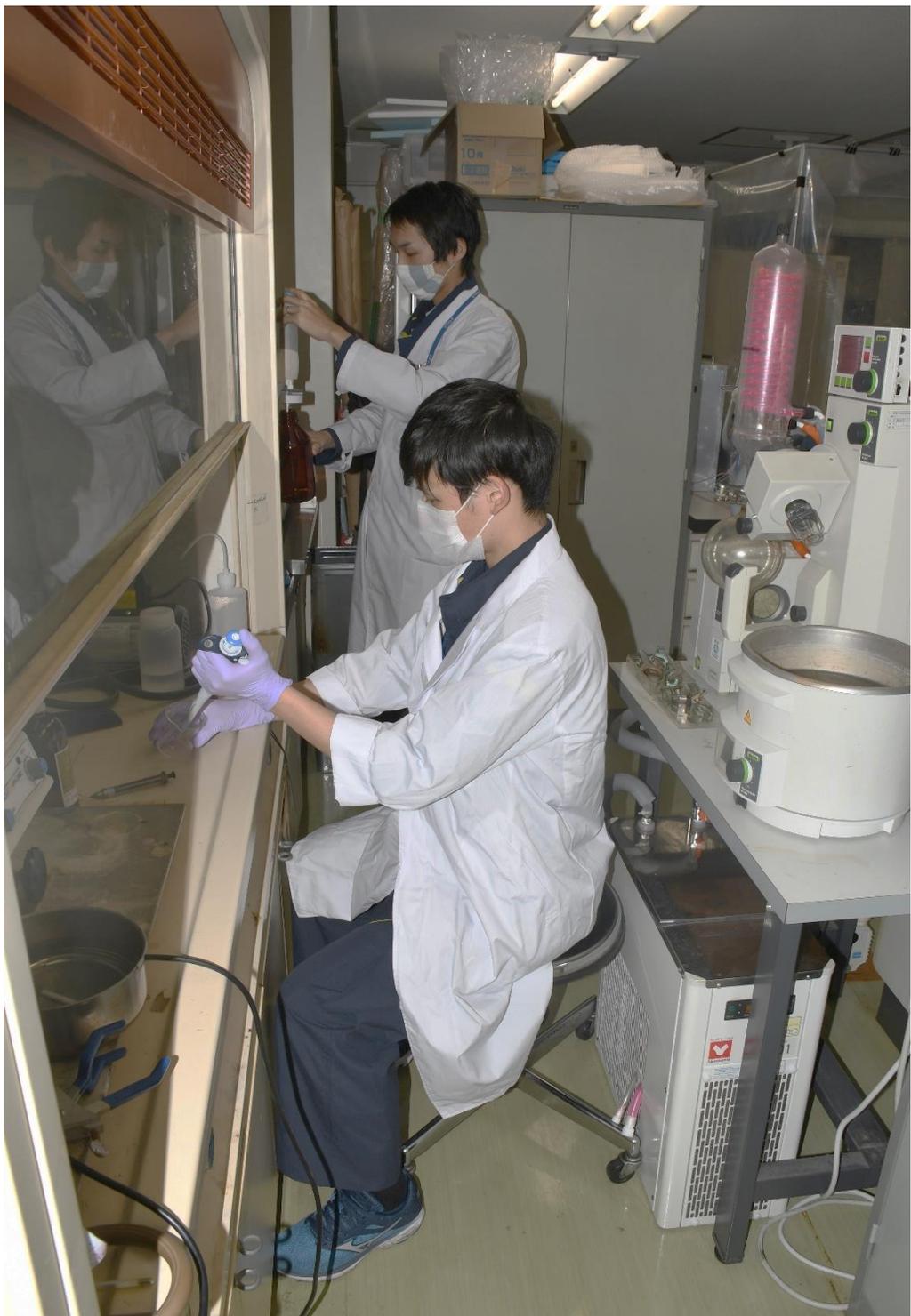
鑑定環境の悪化



一般の執務室を流用しているため、例えば配管がむき出しであるなど、様々な構造上の問題あり



- 物理科と化学科が実験室を共有（全国唯一）
- 粉塵が発生する物理鑑定と、微物を取り扱う化学鑑定を、同時に実施できない
- 効率的が極めて悪く、緊急鑑定依頼時は一方の作業を中断



ドラフトチャンバー（局所排気装置）

有害ガスが発生する鑑定を安全に行うための場所
機材が迫っており緊急時の退避行動が取りづらい



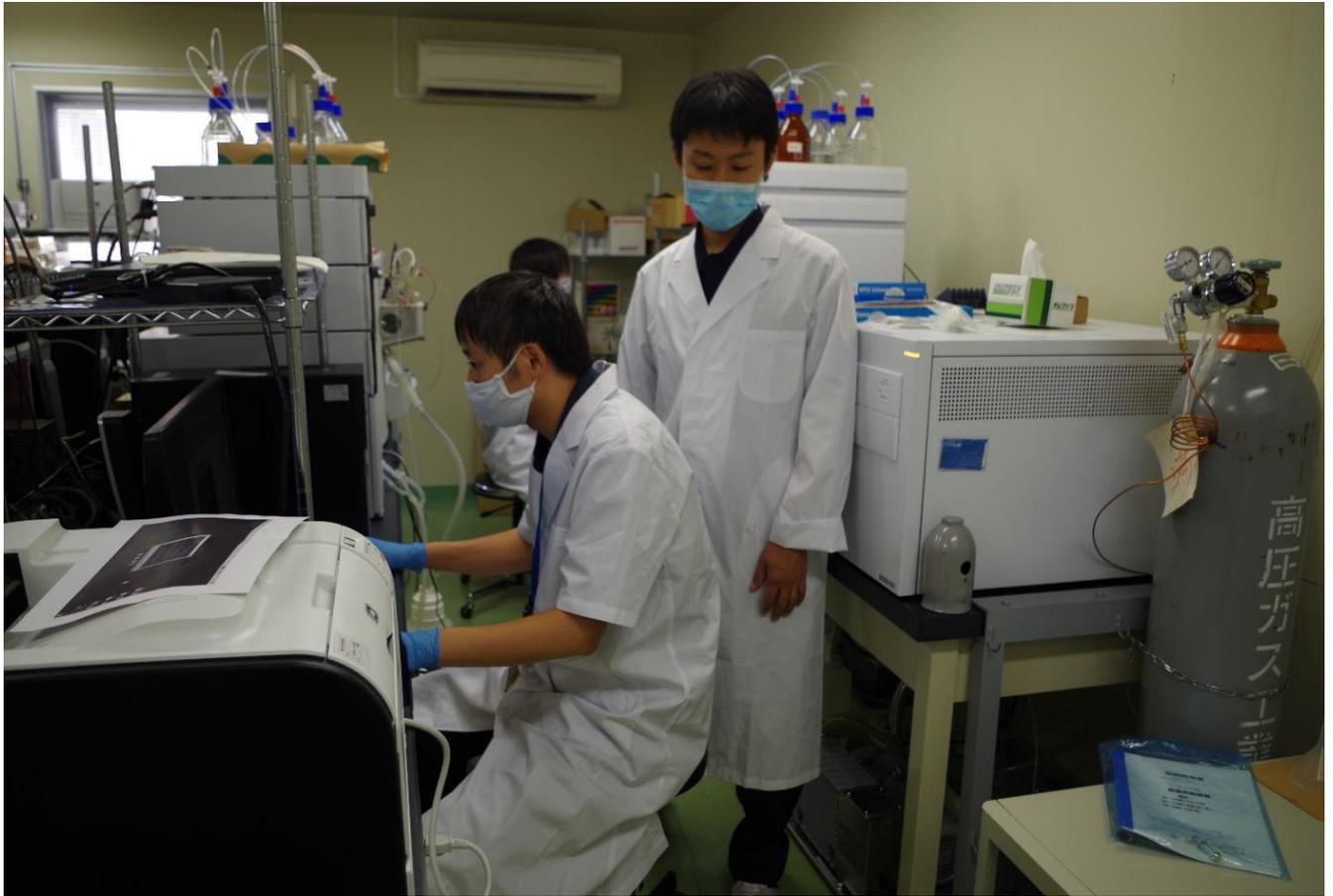
銃器鑑定エリア

十分な試射距離が取れず、跳弾・暴発による事故のおそれがある



分析室

十分な通路幅がなく、作業時や資料運搬時等に接触の危険を伴う

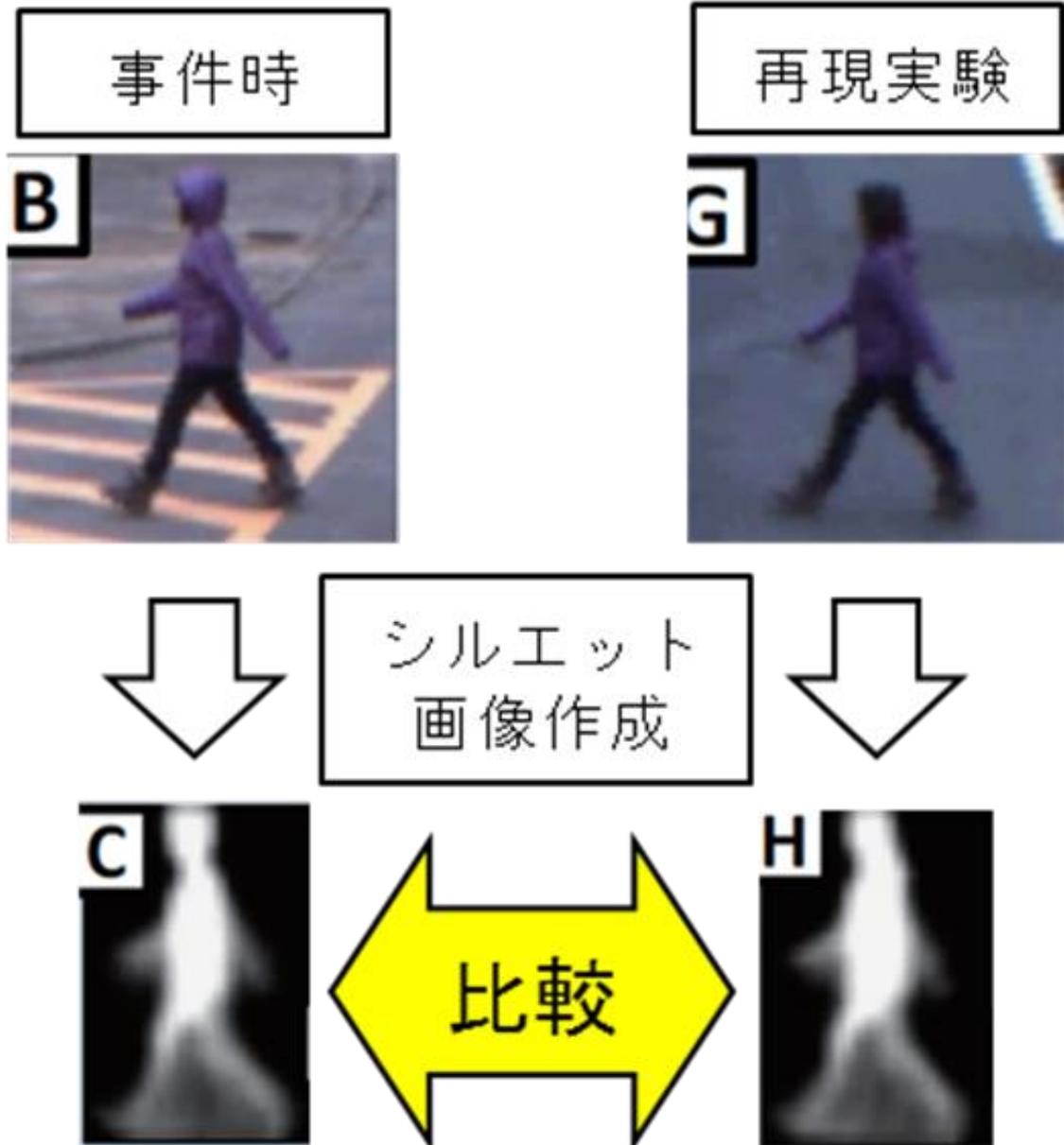


8階分析室（化学）

配分された大型分析機器を設置した結果、分析室が著しく狭隘化。空調も不十分

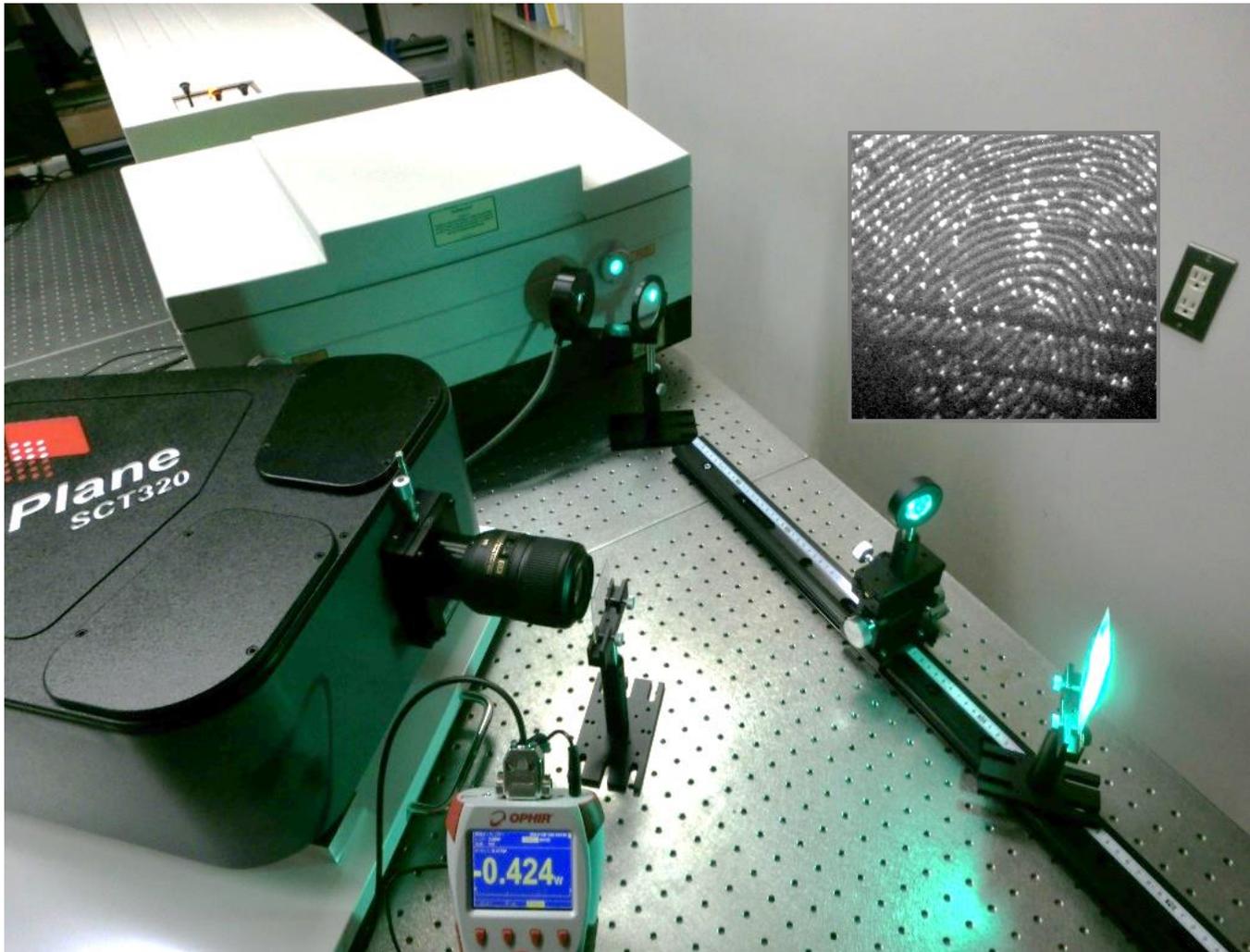
今後、導入が見込まれる鑑定技術

歩容鑑定



解像度の低い画像から、歩行時の特徴により
異同識別が可能

レーザーを用いた指紋等の可視化技術



不可視の指紋であっても、レーザー照射すると蛍光を
発する照射強度と蛍光時間の差異から指紋部分を特定

これをCCDカメラで捉えることで、他の方法（粉末
法、液体法等）での検出が困難な資料からも、指紋の
検出が可能

微量不純物元素による異同識別技術



鑑定対象資料（ガラス片、金属片等）は、その原料や製造工程等に由来する特有な不純物を微量に含有

これら微量不純物元素の有無、含有率等から異同識別が可能

大分県警の施設



宮城県警の施設



※ホームページから引用